

授業科目	保健情報統計学	分 野	専門基礎分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	塩田千尋	実 務	○ (歯科医師)
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学 (医歯薬出版)		
参 考 書			
一般目標	口腔保健状態を科学的な統計を用いて示す方法を理解する。		
到達目標	1. う蝕や歯周病などの歯科疾患を測定するための統計手法を理解する。 2. また、上記に関して説明できる。		
学習方略	講義・演習により、自分で考える学習		
成績評価方法	試験、授業態度及び出席		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	疫学	疫学と公衆衛生	塩田
2	う蝕の疫学	う蝕の疫学的分布	塩田
3	う蝕の診断基準と指数 (1)	DMFT について	塩田
4	う蝕の診断基準と指数 (2)	集団のう蝕の測定	塩田
5	歯周疾患の疫学(1)	歯周疾患の疫学的分布	塩田
6	歯周疾患の疫学(2)	歯周疾患の指標(1)	塩田
7	歯周疾患の指数(1)	歯周疾患の指標(2)	塩田
8	歯周疾患の指数(2)	口腔衛生状態の指標(1)	塩田
9	歯周疾患の指数(3)	口腔衛生状態の指標(2)	塩田
10	その他の歯科疾患の指標	CFI や QOL の指標について	塩田
11	標本調査	標本調査の意味と意義	塩田
12	統計、検定	基本的な検定手法の学習	塩田
13	保健情報の表現・倫理	データの表現と特性の理解	塩田
14	実際の統計処理(1)	演習(1)	塩田
15	実際の統計処理(1)	演習(2)	塩田

授業科目	衛生行政・社会福祉	分 野	専門基礎分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	村上任尚 ¹⁾ ・土田健太郎 ¹⁾ 鎌水麻里 ²⁾	実 務	¹⁾ ○ (歯科医師) ²⁾ ○ (歯科衛生士)
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度 (医歯薬出版)		
参 考 書	国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)、公衆衛生がみえる (メディックメディア)		
一般目標	歯科衛生士として必要な衛生行政・社会福祉の概要を理解するとともに、歯科衛生士業務に関わる法的知識および医療保険制度に関する知識を習得する。		
到達目標	1. 日本の社会保障制度の種類を列挙できる 2. 社会保険ならびに医療保険の種類と特徴、関連法規を説明できる 3. 障害児者・要介護者などの保健・医療・福祉制度を説明できる 4. 歯科衛生士が関わる社会福祉を説明できる		
学習方略	講義・問題演習		
成績評価方法	定期試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	概論	衛生行政・社会福祉概論	村上
2	衛生関係法 ①	医療法、歯科医師法およびその他の衛生関係法	村上
3	衛生関係法 ②	同上	村上
4	衛生関係法 ③	同上	村上
5	衛生行政 ①	地域包括ケアシステム、地域保健法などにおける行政の役割	鎌水
6	衛生行政 ②	同上	鎌水
7	社会保険 ①	医療保険、介護保険、年金保険、労働保険などの生活を保障する公的保険制度の仕組みと運用	土田
8	社会保険 ②	同上	土田
9	社会保険 ③	同上	土田
10	社会保険 ④	同上	土田
11	社会福祉/公的扶助 ①	生活保護、児童、障害者などの福祉行政の仕組みと運用	鎌水
12	社会福祉/公的扶助 ②	同上	鎌水
13	医療の動向 ①	国民の健康状態や医療関係者の推移、国民医療費	村上
14	医療の動向 ②	同上	村上
15	定期試験	歯科衛生士国家試験の形式に準拠した試験を実施	教務

授業科目	歯内療法学Ⅱ	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	1 単位（15 時間）
担 当 者	青山 登	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	学習者が歯内療法学の基本概念を学ぶとともに歯科医学における歯内療法学の必要性、重要性を理解することを目標とする。		
到達目標	学習者が一般目標を達成したうえで、歯内療法に必要な技能、スタッフ・患者と十分コミュニケーションできる能力を修得し、実際の臨床に対応できるようになることを目標とする。		
学習方略	講義形式		
成績評価方法	試験の結果及び出欠状況、学習態度等にて評価		
回	授業項目	学習内容	担当者
1		歯内療法概論	青山
2		歯内療法に用いる器材・薬剤	青山
3		歯内療法における画像診断	青山
4		イニシャルトリートメントとリトリートメント	青山
5		歯内療法における偶発症	青山
6		根未完成歯の治療	青山
7		外傷歯の治療	青山
8		まとめ	青山

授業科目	歯周病学Ⅱ	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	1 単位（15 時間）
担 当 者	両角祐子 八板直道	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学（医歯薬出版）		
参 考 書	歯周病学用語集 第3版（医歯薬出版）		
一般目標	歯周病学を理解するために歯周組織についての知識を深め、さらに歯周病の病因、病態、検査法、診断、治療法について必要とされる基礎知識を習得する。		
到達目標	1. 歯周組織の構造と機能を説明する。 2. 歯周病の分類、原因、検査を説明する。 3. 歯周基本治療を説明する。 4. 歯周外科治療を説明する。 5. 口腔機能回復治療を説明する。 6. メインテナンス・SPT を説明する。		
学習方略	講義		
成績評価方法	客観試験、記述試験、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	歯周組織 歯周病の分類	正常な歯周組織の構造と機能 歯周病の分類（歯肉炎・歯周炎・咬合性外傷）	両角
2	歯周病の原因 歯周病の検査	細菌因子・宿主因子・環境因子 歯周病の検査	両角
3	歯周基本治療（1）	歯周治療の進め方 歯周基本治療の目的と効果 口腔衛生指導	八板
4	歯周基本治療（2）	スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整、 暫間固定、再評価、薬物療法	八板
5	歯周外科治療（1）	歯周外科治療の目的、治癒形態、使用器材	両角
6	歯周外科治療（2）	組織付着療法、歯周組織再生療法、切除療法	両角
7	歯周外科治療（3）	歯周形成手術、根分岐部病変の治療	両角
8	口腔機能回復治療 メインテナンス	咬合調整、歯周-矯正治療、歯の固定法 メインテナンスと SPT	両角

授業科目	歯科補綴学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	鈴木喜之・大泉博史	実 務	○ (歯科医師)
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 (医歯薬出版)		
参 考 書			
一般目標	歯科補綴におけるクラウン・ブリッジ及び歯科補綴の一部である義歯治療の概要を理解し、必要な知識を身につける		
到達目標	1. 歯科臨床における補綴学の位置付けを理解する 2. クラウン・ブリッジの治療の流れを理解する 3. インプラント治療の流れを理解する 4. 義歯治療の流れと構成要素について説明できる 5. 義歯治療における製作工程のステップに必要な知識を身につける 6. 義歯装着後の患者指導		
学習方略	講義 Keynote DVD パワーポイント		
成績評価方法	レポート 期末試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	概要	歯科補綴の概要について	鈴木
2	補綴学の基礎知識(1)	補綴治療における生体の基準を理解する	大泉
3	補綴学の基礎知識(2)	顎口腔機能を理解する	大泉
4	クラウン治療の流れ	クラウン治療の流れを理解する	大泉
5	ブリッジ治療の流れ	ブリッジ治療の流れを理解する	大泉
6	Cr-Br の種類	Cr-Br の種類を理解する	大泉
7	Cr-Br の技工	技工操作を理解する	大泉
8	インプラント治療	インプラント治療の流れと概要を理解する	大泉
9	歯科補綴の器材	補綴治療に用いられる器材を理解する	大泉
10	全部床義歯治療の流れ	全部床義歯製作過程での違いについて理解する 治療室内と技工室内での流れをそれぞれ説明できる	鈴木
11	部分床義歯治療の流れ	部分床義歯製作過程での違いについて理解する 治療室内と技工室内での流れをそれぞれ説明できる	鈴木
12	全部床義歯の構成	ゴシックアーチの目的を理解する 判調節性咬合器について理解する	鈴木
13	部分床義歯の構成	サベイングの目的を理解する 維持装置による分類ができる	鈴木
14	義歯の制作工程	リベースとリラインの違いが説明できる 義歯修理の仕方を理解する	鈴木
15	まとめ	補綴学全般の理解を確認する	鈴木

授業科目	口腔外科学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	石川恵生・遊佐和之	実 務	○ (歯科医師)
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 (医歯薬出版)		
参 考 書	系統看護学講座①9 歯・口腔 (医学書院)		
一般目標	口腔外科疾患の特徴・病態に関する知識を身に付ける。 治療法(外科的療法, 放射線療法, 化学・薬物療法など)について理解する。		
到達目標	1. 様々な口腔外科疾患の特徴・病態についての知識を得る。 2. 治療法(外科的療法, 放射線療法, 化学・薬物療法など)について理解する。 3. 臨床実習の内容を理解できるように十分な知識を得る。		
学習方略	教科書を用いた講義		
成績評価方法	筆記試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	口腔外科総論	口腔外科学の概要	遊佐
2	口腔領域の先天異常	歯の先天異常、口腔の先天異常、顎顔面の先天異常	石川
3	口腔領域の損傷	口腔の軟組織・硬組織損傷の分類と治療法	石川
4	口腔粘膜疾患 1	水泡形成・紅班・びらん・潰瘍・白斑を主徴とする疾患	石川
5	口腔粘膜疾患 2	色素沈着・粘膜萎縮・口腔乾燥・出血を主徴とする疾患	石川
6	口腔領域の炎症	炎症性疾患の原因及び感染経路・臨床症状・治療法	石川
7	口腔領域の嚢胞	嚢胞の定義・分類・臨床的特徴・治療法・予後	石川
8	口腔領域の腫瘍	腫瘍の定義・分類・臨床的特徴・治療法・予後 特に口腔悪性腫瘍を良性病変と見分けるポイント	石川
9	唾液腺疾患 口腔領域の神経疾患	唾液腺・唾液腺疾患の分類・臨床的特徴・治療法 口腔領域の神経・神経疾患の臨床症状	石川
10	診察と診断、滅菌消毒	口腔外科疾患の診察と診断・滅菌消毒について	遊佐
11	創傷治癒、縫合	創傷治癒のメカニズム・縫合手技と使用器材	遊佐
12	抜歯	抜歯の適応と禁忌、基本手技と使用器材	遊佐
13	小手術	小手術の基本手技と使用器材	遊佐
14	出血	出血時の対応	遊佐
15	麻酔、救急蘇生	各種麻酔と適応 バイタルサインと救急蘇生	遊佐

授業科目	小児歯科学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位（30 時間）
担 当 者	有川聖良	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科診療を理解する。		
到達目標	1. 小児の正常な身体的成長発育・心理的発達とその障害を説明できる。 2. 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 3. 乳歯と幼若永久歯の解剖学的特徴、う蝕の特徴、治療法を説明できる。 4. 歯列及び咬合の正常発育と咬合誘導の概念を説明できる。		
学習方略	講義		
成績評価方法	学期末試験、講義毎小テスト、受講態度により総合評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	概要	小児歯科学とは	有川
2	小児歯科の基礎	心身の発達	有川
3	小児歯科の基礎	小児の生理的特徴	有川
4	小児歯科の基礎	顔面頭蓋の発育	有川
5	小児歯科の基礎	歯の発育とその異常	有川
6	小児歯科の基礎	歯列・咬合の発育と異常	有川
7	小児歯科の基礎	小児の歯科疾患	有川
8	小児歯科診療	小児期の特徴と歯科問題点	有川
9	小児歯科診療	患児の対応法	有川
10	小児歯科診療	小児歯科診療の特徴	有川
11	小児歯科診療	障害児の歯科治療	有川
12	診療補助	小児歯科における診療補助の原則	有川
13	診療補助	診療補助 1 予防、修復、歯内療法	有川
14	診療補助	診療補助 2 外科的処置、咬合誘導	有川
15	診療補助	小児の口腔保健管理、まとめ	有川

授業科目	歯科矯正学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	後藤安史・齋藤壽彦	実 務	○ (歯科医師)
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 (医歯薬出版)		
参 考 書			
一般目標	歯科矯正学に関し、その基礎と臨床を理解し、矯正治療臨床の場において十分対応できる歯科衛生士の育成を目標とする。		
到達目標	1. 歯科矯正治療の必要性を理解する。 2. 基礎となる解剖・成長発育(特に歯列の成長)を理解する。 3. 不正咬合の種類ならびにその原因を理解する。 4. 不正咬合の治療に必要な知識(診断、器材、材料、装置)を理解する。 5. 矯正臨床における歯科衛生士の役割を理解する。		
学習方略	教科書		
成績評価方法	小テスト、期末試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	矯正歯科治療の概要	歯科矯正治療とは、矯正歯科治療の目的	後藤
2	成長・発育	身体の成長・発育、頭蓋および顎顔面の成長・発育、歯列の成長・発育	後藤
3	正常咬合と不正咬合	正常咬合とは、不正咬合とは、不正咬合の分類	後藤
4	矯正歯科診断	診断に必要な検査、症例分析	後藤
5	矯正力、顎整形力、保定	歯の移動と固定、組織変化、保定について	後藤
6	矯正装置	矯正歯科に使用する装置の種類とその使い方	後藤
7	総まとめ	重要なポイントの再確認	後藤
8	小テスト		後藤
9	歯科矯正学の臨床	不正咬合の分類の復習、歯科矯正学の臨床の概要	齋藤
10	上下顎の前後的關係の不調和	個々の歯の異常の復習、上顎前突の矯正治療	齋藤
11	上下顎の前後的關係の不調和	歯の移動と固定、反対咬合の矯正治療	齋藤
12	上下顎の垂直的關係の不調和	過蓋咬合、開咬の矯正治療	齋藤
13	歯の埋伏と歯数の異常	埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯の矯正治療	齋藤
14	萌え換わりでの咬合の変化、口腔顎顔面の形成異常と変形	各年代での不正咬合、唇顎口蓋裂、先天性疾患に伴う咬合異常、顎変形症と矯正治療	齋藤
15	検査／診断、矯正装置、器具	検査／診断の流れ、器具の準備と取り扱い、装置装着時の説明	齋藤

授業科目	歯科予防処置論Ⅱ（歯周病予防処置）	分 野	専門分野
時 期	2 学年 通年（前期）	単位数	3 単位（90 時間）
担 当 者	永田一樹 ¹⁾ ・吾妻聡 ¹⁾ ・橋本紀洋 ¹⁾ 秋葉まゆ美 ²⁾ ・高橋弥良 ²⁾ ・大場智美 ²⁾ 結城泉 ²⁾ ・半田茜 ²⁾ ・平井愛梨 ²⁾	実 務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯周病学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	生涯を通じた人々の歯・口腔の健康に関する管理方法を身につけるため、専門的な知識、技術、態度を身につける。		
到達目標	1. 模擬患者（異学年、保護者）に対し、配慮した対応ができる。 2. 模擬患者（異学年、保護者）から、正確に口腔内の情報を収集できる。 3. 模擬患者（異学年、保護者）から得た情報より、問題点を抽出できる。 4. 模擬患者（異学年、保護者）の問題点に合わせた改善策を列举できる。 5. 模擬患者（異学年、保護者）に対し、問題点、改善策を説明できる。 6. 模擬患者（異学年、保護者）に対し、安全な器具操作ができる。 7. 超音波スケーラー、エアースケーラーの原理を説明できる。 8. 超音波スケーラーを正しく取り扱うことができる。 9. 超音波スケーラーを正しく操作できる。 10. 対象者の口腔内の特徴、問題点、改善策を把握できる。 11. 中高年の方に対するスケーリングを実施できる。		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・実技評価・授業態度・出席率・提出物		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習準備	秋葉
2	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 情報収集	秋葉
3		問診、口腔内写真、診査（プロービング含） う蝕活動性試験	
4	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 1 回目	秋葉
5	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 1 回目	秋葉
6	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 2 回目	秋葉
7	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 2 回目	秋葉
8	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 3 回目	秋葉
9	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 3 回目	秋葉
10	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 4 回目	秋葉
11	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 全体 実施 4 回目	秋葉

12			
13	1, 2 年相互間実習	1, 2 年相互間実習 振り返り 相互間実習	秋葉
14	超音波・エアースケーラー	超音波・エアースケーラーの基礎	高橋
15	超音波・エアースケーラー	超音波・エアースケーラーの基礎 各機器の取り扱いとポイントについて バキューム操作について	高橋
16	超音波スケーラー	超音波スケーラー相互間実習①	高橋
17	超音波スケーラー	超音波スケーラー相互間実習②	高橋
18	シャープニング	シャープニング実習①	高橋
19	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 (保護者) オリエンテーション	秋葉
20	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 1 回目 A 班 実施 1 回目	永田
21	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 1 回目 A 班 実施 1 回目	永田
22	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 2 回目 B 班 実施 1 回目	橋本
23	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 2 回目 B 班 実施 1 回目	橋本
24	シャープニング	シャープニング実習②	高橋
25	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 3 回目 A 班 実施 2 回目	吾妻
26	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 3 回目 A 班 実施 2 回目	吾妻
27	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 4 回目 B 班 実施 2 回目	永田
28	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 保護者来校 4 回目 B 班 実施 2 回目	永田
29	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 (保護者) 振り返り①相互間実習	秋葉
30			
31	模擬患者実習 (保護者)	模擬患者実習 (保護者) 振り返り②資料整理	秋葉

授業科目	歯科保健指導論Ⅱ	分 野	専門分野
時 期	2 学年 通年（前期）	単位数	3 単位（90 時間）
担 当 者	人見早苗・平井愛梨・ 結城泉・大場智美・半田茜・ 秋葉まゆ美・高橋弥良	実 務	○（歯科衛生士）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	口腔健康管理の意義を理解し、全身の健康を維持するための支援として、人々の歯・口腔のセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	1. ライフステージ別衛生教育の概要を理解する。 2. 幼児期の身体、言語、口腔内の状態を理解する。 3. 幼稚園での集団指導を実施する。 4. 学童期の身体、口腔内の状態を理解する。 5. 学童に集団及び個人指導を実施する。 6. 思春期（中学生）の心身、口腔の特徴を理解する 7. 学校歯科健診での歯科衛生士の役割を理解する 8. 中学生に個別指導を行う 9. 食品と歯科疾患（う蝕・歯周病）の関連性を理解し、食品摂取方法を説明できる。 10. 保健行動支援に基づき、行動変容に導く知識と技能を理解する。 11. 歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解する。 12 対象者からの情報収集を広く行い、疾病に関わる内容を推論できる。 13. 業務記録の重要性を理解し説明できる。 14. 医療面接の意義を背景として、コミュニケーションを深める技法を身に着ける。		
学習方略	講義・ミニテスト・実習・		
成績評価方法	小試験・定期試験・レポート		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
2	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
3	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
4	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
5	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
6	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
7	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉
8	ライフステージ・状態別指導の実際	学童期における保健指導の要点、指導法について（教育媒体作成）	秋葉

9	ライフステージ・状態別指導の実際	幼児期における保健指導の要点、指導法について (教育媒体作成)	秋葉
10	ライフステージ・状態別指導の実際	幼児期における保健指導の要点、指導法について (教育媒体作成)	秋葉
11	ライフステージ・状態別指導の実際	幼児期における保健指導の要点、指導法について (教育媒体作成)	秋葉
12	ライフステージ・状態別指導の実際	幼児期における保健指導の要点、指導法について (教育媒体作成)	秋葉
13	食事指導の基礎	食生活および食習慣の把握	人見
14	食事指導の要点	食品とう蝕誘発性(ショ糖とう蝕の関連性)	人見
15	食事指導の要点	食品とう蝕誘発性(代用甘味料を中心に)	人見
16	食事指導の要点	食生活と歯科疾患(歯周病・酸蝕症等)	人見
17	食事指導の要点	咀嚼と食品(目的・効果) 特別用途食品と保健機能食品	人見
18	食事指導の要点	栄養指導と歯科保健指導の要点	人見
19	食事指導法	う蝕誘発因子に関する考察(Gワーク)	人見
20	食事指導法	う蝕予防に関わる間食指導の考察(Gワーク)	人見
21	保健行動支援	行動変容に関連する基礎理論	人見
22	保健行動支援	歯科衛生過程のマネジメントサイクルと臨床 POSを基盤としたPOMRの実際	人見
23	保健行動支援	患者とのコミュニケーションとアセスメント(Gワーク)	人見
24	保健行動支援	情報収集からの考察(健康状態、認知機能、生活習慣等)	人見
25	保健行動支援	喫煙の問題と禁煙指導	人見
26	医療面接	傾聴とは 演習:傾聴の基本(ロールプレイ)	人見
27	医療面接	コミュニケーションとは 演習:傾聴の基本(ロールプレイ)	人見
28	医療面接	コミュニケーションとは 演習:傾聴の基本(ロールプレイ)振り返り	人見
29	医療面接	医療面接とは 演習:関わり行動(ロールプレイ)	人見
30	医療面接	演習:関わり行動(ロールプレイ) 振り返りまとめ・前 期末試験について	人見

授業科目	摂食嚥下リハビリテーション	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	三原法子 ¹⁾ 鈴木 拓 ²⁾ 児玉俊恵 ³⁾ ・志鎌みな子 ³⁾ 佐藤由紀 ⁴⁾	実 務	¹⁾ ○ (管理栄養士) ²⁾ ○ (歯科医師) ³⁾ ○ (歯科衛生士) ⁴⁾ ○ (言語聴覚士)
教 科 書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 (医歯薬出版)		
参 考 書	動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション (中山書店)		
一般目標	口から食べる機能に障害が生じた人に対し、摂食嚥下能力の回復を目的として口腔機能向上の専門的立場から指導・援助ができる能力を身につける。		
到達目標	1. 口から食べることの重要性を理解する 2. 摂食嚥下機能に関する解剖・生理を理解する 3. 摂食嚥下機能の病態・原因を説明する 4. 摂食嚥下障害の評価を理解する 5. 摂食嚥下障害の対応を理解する 6. 器質的・機能的口腔衛生管理を理解する		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・授業態度・出席率・レポート		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	摂食嚥下障害の概要	摂食嚥下機能のしくみと器官	鈴木
2		健康と栄養素 (栄養素の種類・役割、食事摂取基準、栄養素の求め方)	三原
3		口腔衛生管理の効果と分類	児玉
4		健康と食生活 (食品群、保健機能食品、食育、ライフステージ別の食事)	三原
5	摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下障害と思われる病態	佐藤
6		摂食嚥下障害のアセスメント	佐藤
7		摂食嚥下障害の治療と訓練	佐藤
8		乳幼児期の嚥下と食事	三原
9		高齢者の嚥下と食事	三原
10	口腔ケア	口腔衛生管理の方法 (専門的口腔ケア) 口腔衛生管理の用具・義歯	児玉
11	摂食嚥下訓練	摂食嚥下障害に対する訓練の考え方と計画立案 基礎訓練 (間接訓練)	志鎌
12		口腔清掃を中心とした口腔衛生管理を行う際の留意事項	児玉
13	摂食嚥下訓練	摂食嚥下障害に対する食事指導 摂食訓練 (直接訓練)	志鎌
14		相互実習	児玉
15	歯科衛生士が行う 摂食嚥下リハの基本	摂食嚥下障害者の症例展開	志鎌

授業科目	歯科診療補助論Ⅱ	分 野	専門分野
時 期	2 学年 通年（前期）	単位数	3 単位（90 時間）
担 当 者	永田一樹 ¹⁾ ・太田貴志 ¹⁾ ・齋藤壽彦 ¹⁾ ・半田茜 ²⁾ ・吉田由希子 ²⁾ ・結城泉 ²⁾ ・大場智美 ²⁾ 平井愛梨 ²⁾ ・秋葉まゆ美 ²⁾ 高橋弥良 ²⁾ ・鈴木淳 ³⁾	実 務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士） ³⁾ ○（歯科技工士）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版） 器材準備マニュアル（口腔保健協会） 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版（医歯薬出版） デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック 2023 年版（全国保団連）		
参 考 書	歯科医療における感染予防対策マニュアル&研修テキスト（医歯薬出版） チェアーサイドデンタルマテリアル（医歯薬出版）		
一般目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。		
到達目標	1. 診療の流れを病態別に説明する 2. 規格性のある口腔内写真撮影方法を理解する 3. 歯科診療室における歯科衛生士の役割を理解し、適切な対応について考察する 4. 医療人としての自己管理について考察し行動する 5. 合着セメントの取り扱いができる 6. スタディモデル作成の意義を理解し、実習を行うことができる 7. アルジネート印象材の取り扱いを理解し、実践する 8. 歯科用石膏の取り扱いを理解し、実践する 9. 他職種との連携業務について説明する 10. 歯科矯正における診療補助を説明する 11. 学校歯科検診時の補助と歯科衛生士の役割を述べる		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・実技試験・提出物・出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	診療補助基礎Ⅱ	歯科診療補助論Ⅱ 実習のねらい（医療面接復習） 学校歯科健診時の補助① 共同動作、情報収集の復習	半田
2	診療補助基礎Ⅱ	口腔内写真撮影法③相互評価	太田
3	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	学校歯科健診時の補助②	半田
4	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	学校歯科健診時の補助③ 1 年生定期歯科検診	永田
5	診療補助実習	学校歯科健診時の補助④	半田
6	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	主要歯科材料の取扱い 歯科材料の基礎知識・合着材及び接着材 ・合着セメント練和実習	半田
7	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯科診療で扱う歯科材料 歯科材料の基礎知識の復習 印象採得・歯科用石膏	半田

8	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯科診療で扱う歯科材料 模型の作製 アルジネート印象材の取扱い 歯科用石膏の取扱い	半田
9	診療補助基礎Ⅱ	スタディモデル作成相互実習のねらい	鈴木
10	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習①下顎	鈴木
11	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習①下顎	鈴木
12	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習①下顎 トリミング	鈴木
13	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習②上顎	鈴木
14	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習②上顎	鈴木
15	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習②上顎 トリミング	鈴木
16	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習③ 平行模型の作製	鈴木
17	診療補助実習	スタディモデル作製相互実習③ 平行模型の作製	鈴木
18	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	診療補助業務と他の医療職 チーム歯科医療	吉田
19	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	臨床で起こりうるヒヤリ・ハット 偶発事故の対応 医療法と医療安全対策	吉田
20	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	合着・接着の補助 実技試験事前練習	半田
21	診療補助基礎Ⅱ	実技試験	半田
22	診療補助実習		
23	診療補助実習	歯科矯正における診療補助 歯科衛生士の役割①MF T	齋藤
24		歯科矯正における診療補助 歯科衛生士の役割②術式とセッティング	齋藤

授業科目	受付・社会保険請求事務	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	1 単位 (30 時間)
担 当 者	佐々木英夫・江良謙次・ 菊池利也	実 務	○ (歯科医師)
教 科 書	歯科保険請求マニュアル令和 6 年版歯の知識と請求の実務 (医歯薬出版)		
参 考 書			
一般目標	社会保険制度を理解し、歯科臨床における診療録を診療報酬明細書への記入と事務処理ができるようにするために、その仕組みと記入方法を習得する。		
到達目標	1. 保険請求のルールを理解する。 2. 診療のルールを理解する。(流れ) 3. 診療録の内容を理解する。 4. 診療録から診療報酬明細書を作成できる。		
学習方略	講義 実習		
成績評価方法	筆答 (100%)		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	医療保険制度 (総論)	医療保険制度の概要を理解する。	佐々木
2	医療保険制度 (各論)	各種保険 (社会保険、医療保険、介護、老人など)	佐々木
3	歯科医療の実際	歯科医療の目的を理解する。	佐々木
4	歯科衛生士業務の実際	歯科衛生士の役割を理解する。	佐々木
5	医事業務①	受付で行われる諸手続き、事務を理解する。	佐々木
6	医事業務②	歯科衛生士が行う受付事務を理解する。	江良
7	レセプト請求事務①	歯科点数表を理解する。	江良
8	レセプト請求事務②	保存修復を理解し、レセプト作成をする。	江良
9	レセプト請求事務③	歯内療法を理解し、レセプト作成をする。	江良
10	レセプト請求事務④	補綴治療を理解し、レセプト作成をする。	江良
11	レセプト請求事務⑤	歯周治療を理解し、レセプト作成をする。	菊池
12	レセプト請求事務⑥	有床義歯を理解し、レセプト作成をする。	菊池
13	レセプト請求事務⑦	ブリッジを理解し、レセプト作成をする。	菊池
14	レセプト請求事務⑧	レセプト請求事務の復習	菊池
15	その他、試験		教務

授業科目	基本介護技術	分 野	専門分野
時 期	2 学年 前期	単位数	1 単位 (30 時間)
担 当 者	三瓶典子 ¹⁾ ・伊藤就治 ²⁾	実 務	¹⁾ ○ (介護福祉士) ²⁾ ○ (看護師・保健師)
教 科 書	新 安全な動作介助のてびき (医歯薬出版) 第 3 版		
参 考 書	根拠から理解して学べる新セルフチェック基本介護技術第 2 版 (中央法規) 根拠と写真で学ぶ看護技術 ①生活行動を支える援助 (中央法規)		
一般目標	高齢者、障害者 (視覚障害者) の方に対する対応として、歯科診療補助の前後における移動介助など基本的な介護技術を習得する		
到達目標	1. 高齢者や障害者の身体的機能・心理的特徴を学び、観察、アセスメントの必要性について理解できる 2. 対象者の診療前後の移動・移乗動作を安全に、安楽に介助することができる 3. 対象者の使用しているサービス (福祉用具) などについての理解を深め、福祉用具 (杖、車椅子) を安全に使用し、介助することができる		
学習方略	講義・演習		
成績評価方法	定期試験 50%、実技試験 50%		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	動作介助の意義と目的	人間にとっての動作・移動の意義。観察とアセスメント	伊藤
2	基本動作 (演習)	椅子からの立ち上がり、歩行の基本動作	三瓶 伊藤
3	介助の基本原則	障害の理解と自立支援への働きかけ	伊藤
4	杖歩行 (演習)	片麻痺の方の杖歩行の介助 (平地・段差・階段等)	三瓶 伊藤
5	加齢・各障害の理解	加齢による心身の変化・廃用症候群、各障害の概要	伊藤
6	白杖、車椅子移乗 (演習)	視覚障害者の歩行介助 椅子から車椅子への移乗介助	三瓶 伊藤
7	認知症の理解	認知症の概要	伊藤
8	車椅子介助 (演習)	椅子・車椅子への移乗介助及び移動介助 (平地・段差等)	三瓶 伊藤
9	障害・認知症の支援	各障害、認知症の人への具体的支援方法	伊藤
10	衣服の着脱介助 (演習)	片麻痺の方への衣服の着脱介助 ユニットへの移乗介助	三瓶 伊藤
11	他職種との役割と連携	対象者を取り巻く専門職の役割と連携	伊藤
12	ユニットへの移乗 (演習)	診療室のユニットへの移乗・移動介助	三瓶 伊藤
13	介助の実際① (演習)	ベッド上での基本動作 (寝返り、起き上がり、座位保持等)	三瓶 伊藤
14	介助の実際② (演習)	車椅子の移動介助及び自動車への移乗介助	三瓶 伊藤
15	基本介護技術のまとめ	実技試験に向けてオリエンテーション	三瓶 伊藤
16	基本介護技術のまとめ	実技試験	三瓶 伊藤

授業科目	臨地・臨床実習学習法Ⅱ	分 野	選択必修分野
時 期	2 学年 通年	単位数	1 単位 (30 時間)
担 当 者	半田茜・秋葉まゆ美・結城泉 大場智美・平井愛梨・高橋弥良	実 務	○ (歯科衛生士)
教 科 書			
参 考 書	臨床実習HAND BOOK (クインテッセンス出版) 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版 (医歯薬出版)		
一般目標	臨床臨地実習を円滑に行うために、必要な知識・技術・態度を身につける		
到達目標	2 年生における臨地臨床実習において学習する内容を理解する		
学習方略	講義・演習		
成績評価方法	授業態度・出席状況・提出物・終了時試験評価		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	オリエンテーション 中学校実習事前学習 小学校実習事前学習	臨地実習の心構え・実習の概要 小中学生の心と体・口腔内の状況・学校歯科健診票の記入・指導案作成・指導教材作成	半田
2	小学校実習事前学習 中学校実習事前学習	第八小学校臨地実習準備 第三中・第六中学校臨地実習準備	半田
3	小学校実習事前学習 中学校実習事前学習	第八小学校臨地実習準備 第三中・第六中学校臨地実習準備 第一小学校・第二小学校臨地実習準備	半田
4	臨地実習振り返り	小中学校臨地実習振り返り	半田
5	臨床実習事前学習	臨床実習登院前試験 (筆記)	秋葉
6	臨地実習事後学習	臨床実習振り返り	秋葉
7	臨床実習事前学習	臨床実習登院前試験 (実技)	秋葉
8	幼稚園実習事前学習	さゆり幼稚園臨地実習準備 ロールプレイ	半田
9	臨地実習振り返り	さゆり幼稚園臨地実習振り返り	半田
10	臨床実習事後学習	臨床実習振り返り	秋葉
11	臨床実習事後学習	臨床実習終了試験 (筆記)	秋葉
12	臨床実習事後学習	臨床実習振り返り	秋葉
13	臨地実習事後学習	臨床実習振り返り	秋葉
14	臨床実習事後学習	臨床実習修了試験 (実技)	秋葉
15	臨床実習事後学習	臨床実習のまとめと振り返り	秋葉

授業科目	ケアコミュニケーションⅡ	分 野	選択必修分野
時 期	2 学年 通年	単位数	1 単位（15 時間）
担 当 者	加藤雅子 ¹⁾ ・エスタ ウエア	実 務	¹⁾ ○（担当分野事業所代表）
教 科 書	歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション（ウイネット）		
参 考 書	ケア・コミュニケーション（ウイネット）		
一般目標	将来の歯科衛生士として、信頼関係に基づく医療サービスを提供するためのコミュニケーション能力、及び社会人として多くの人と円滑な人間関係を築く能力を習得する。		
到達目標	ビジネスマナー 1. 社会人としての心構えを理解する 2. 基本動作や言葉使いを理解し実践する 3. 患者対応、電話対応の基本を実践する 歯科専門英語 1. 歯科診療室における様々な場面を想定した英会話ができる		
学習方略			
成績評価方法	定期試験、授業態度、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	ビジネスマナー	ビジネスマナー （社会人としての心構え・基本動作実践・言葉遣い）	加藤
2	ビジネスマナー	ビジネスマナー （受容と共感のコミュニケーション）	加藤
3	歯科専門英語	初めて治療対応時の英会話	エスタ
4	歯科専門英語	治療対応時の英会話	エスタ
5	ビジネスマナー	電話対応の基本 （電話対応マナー：掛け方と受け方、慣用表現）	加藤
6	ビジネスマナー	電話対応の実践 ①予約を受ける ②お問い合わせにお答えする	加藤
7	ビジネスマナー	わかりやすく説明する 説明スキル ～伝え方ワーク～	加藤
8	ビジネスマナー	わかりやすく説明する 説明と提案ケーススタディー	加藤

授業科目	高齢者歯科学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 後期	単位数	1 単位（15 時間）
担 当 者	田中恭恵	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。		
到達目標	1. 全身および口腔の加齢と老化を説明できる 2. 高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる 3. 高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる 4. 高齢者の口腔健康管理を説明できる 5. 歯科訪問診療の意義と目的を説明できる		
学習方略	講義（スライド）		
成績評価方法	筆記試験による		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	高齢者をとりまく社会と環境	高齢化、平均寿命、健康寿命、死因の変遷、高齢者の健康に関わる法制度	田中
2	介護保険	介護保険制度の概要、地域支援事業、予防給付、歯科衛生士が関与する介護予防、地域包括ケアシステム	田中
3	加齢に伴う身体的機能の変化	加齢と老化、加齢に伴う全身的な変化、口腔・咽頭領域の加齢変化	田中
4	高齢者の精神・心理的变化 歯科治療時に注意すべき全身疾患	老化による心理的变化、うつ・せん妄、悪性腫瘍、高血圧、心疾患、糖尿病	田中
5	生活機能を低下させる全身疾患 高齢者に特有な口腔の疾患・症状	脳血管障害、認知症、神経・筋疾患、肺炎、フレイル、サルコペニア、廃用症候群、骨関節疾患、根面う蝕、オーラルフレイル、口腔機能低下症	田中
6	高齢者の生活機能の評価	ADL、IADL、BDR、自立度の評価、認知機能の評価	田中
7	高齢者歯科と臨床検査 高齢者の栄養状態	バイタルサイン、血液検査、栄養スクリーニング、栄養評価、経管栄養、静脈栄養	田中
8	高齢者の口腔健康管理 在宅医療	口腔アセスメント、在宅医療、歯科訪問診療	田中

授業科目	障害者歯科学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 後期	単位数	1 単位（15 時間）
担 当 者	長沼由泰	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生士シリーズ 障害者歯科学（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	障害者歯科医療の概略を理解する。		
到達目標	1. 障害者の身体的・心理的・社会的特徴を説明する。 2. 代表的な疾患について概略と歯科的対応を説明する。 3. 発達に即した行動調整法を応用する。 4. 障害のある患者さんへの口腔ケアを説明する。		
学習方略	座学		
成績評価方法	筆記試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	総論	障害の概念及び地域における障害者歯科	長沼
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 I	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 精神発達・心理的発達と行動障害・運動障害 (神経・筋系疾患)	長沼
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 II	感覚障害・音声言語障害・精神および行動の障害	長沼
4	障害者の 歯科医療と行動調整 コミュニケーションの 方法及び行動療法	行動変容法 体動のコントロール及び薬物的行動調整	長沼
5	健康支援と 口腔衛生管理	介助者が行う口腔のケアへの支援、専門的口腔ケア 特別な配慮が必要な患者への口腔衛生管理	長沼
6	障害者歯科における 歯科衛生過程	リスク評価と安全管理	長沼
7	障害児・者の摂食・嚥下 リハビリテーション	摂食・嚥下障害と口腔管理、栄養管理、評価法 摂食機能療法、小児期の摂食・嚥下障害への対処法	長沼
8	まとめと PBL	講義のまとめ・症例に対する歯科保健計画立案	長沼

授業科目	歯科放射線学	分 野	専門分野
時 期	2 学年 後期	単位数	1 単位（15 時間）
担 当 者	飯久保正弘	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版（学建書院）		
参 考 書			
一般目標	歯科におけるエックス線の正しい利用法を学ぶ		
到達目標	1. エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法を学習する。 2. 歯科におけるエックス線撮影の意義を理解し、歯科衛生士が果たすべき役割を認識し自覚する。 3. 画像診断の基本を理解し、簡単な病態診断ができる。		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	出席・試験・学習態度		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	エックス線の基礎知識とエックス線写真	近な放射線、放射線の種類、 エックス線の発生、エックス線の性質 エックス線写真の成り立ち、写真処理	飯久保
2	放射線防護	放射線被曝、放射線の生体に対する作用 組織の放射線感受性、放射線防護	飯久保
3	歯科用エックス線撮影法(1)	口内法撮影法、歯科衛生士の役割	飯久保
4	歯科用エックス線撮影法(2)	パノラマ撮影法と読影、歯科衛生士の役割	飯久保
5	撮影実習	二等分法撮影の患者誘導、フィルムの位置付け、照射コーンの位置付け	飯久保
6	撮影実習	二等分法撮影の患者誘導、フィルムの位置付け、照射コーンの位置付け	飯久保
7	歯科用エックス線撮影法(3)	口外法（単純）、口内法の読影ポイント	飯久保
8	放射線治療と最新の画像診断	放射線を用いた癌治療 様々な画像診断装置	飯久保

授業科目	歯科予防処置論Ⅱ（う蝕予防処置）	分 野	専門分野
時 期	2 学年 通年（後期）	単位数	3 単位（90 時間）
担 当 者	大場智美・秋葉まゆ美・高橋弥良 結城泉・半田茜・平井愛梨	実 務	○（歯科衛生士）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	生涯を通じた人々の歯・口腔の健康に関する管理方法を身に着けるため、専門的な知識、技術、態度を身につける。		
到達目標	1. フッ化物の毒性を説明できる 2. フッ化物の計算ができる 3. フッ化物配合歯磨剤の特徴、応用法、作用機序を説明できる 4. フッ化物の味見を体験する 5. フッ化物歯面塗布法の目的、種類、術式、作用機序を説明できる 6. 相互間でフッ化物歯面塗布を実施できる 7. 小窩裂溝填塞法の目的、種類、術式、対象歯を説明できる 8. 相互間で小窩裂溝填塞法を実施できる 9. バナペリオ実習を体験する		
学習方略	講義・演習・実習・小テスト		
成績評価方法	定期試験・小テスト・提出物・授業態度・出席率		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	バナペリオ	バナペリオ実習	白水貿易
2	フッ化物振り返り	フッ化物の基礎知識の振り返り	大場
3	フッ化物の毒性	フッ化物の毒性（急性・慢性・致死量）	大場
4	フッ化物の計算	フッ化物の計算	大場
5	フッ化物応用法 （歯磨剤）	フッ化物配合歯磨剤	大場
6	フッ化物の味見	フッ化物の味見	大場
7	フッ化物応用法 （歯面塗布法）	フッ化物歯面塗布法 目的・作用機序・種類・術式	大場
8	フッ化物応用法 （歯面塗布法）	フッ化物歯面塗布相互間実習① 綿球法・歯ブラシ法	大場
9	フッ化物応用法 （歯面塗布法）	フッ化物歯面塗布相互間実習② 綿球法・歯ブラシ法	大場
10	フッ化物応用法 （歯面塗布法）	フッ化物歯面塗布相互間実習③ トレー法	大場
11	フッ化物応用法 （歯面塗布法）	フッ化物歯面塗布相互間実習④ イオン導入法	大場
12	小窩裂溝填塞法	基礎知識（目的、術式、注意点） 相互間実習①（デモンストレーション）	大場
13	小窩裂溝填塞法	小窩列裂溝填塞法 相互間実習②	大場
14	小窩裂溝填塞法	小窩列裂溝填塞法 相互間実習③	大場
15	まとめ	まとめと振り返り	大場

授業科目	歯科保健指導論Ⅱ	分 野	専門分野
時 期	2 学年 通年（後期）	単位数	3 単位（90 時間）
担 当 者	人見早苗・平井愛梨・結城泉・ 大場智美・半田茜・秋葉まゆ美・ 高橋弥良	実 務	○（歯科衛生士）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版） 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版（医歯薬出版）		
参 考 書			
一般目標	健康支援として、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	1. 同年代の口腔状態を把握し、歯科保健指導を実施する。 2. 口腔健康管理の目的と内容が説明できる。 3. 各ステージでの口腔衛生管理の役割について理解し、適切な手技を行える。 4. オーラルフレイルについて理解し、予防方法を説明できる。 5. 摂食・嚥下に関わる機能を理解し、誤嚥予防に努める。 6. 要介護者に対する口腔衛生管理の重要性を理解し、リスク管理を学ぶ。 7. 介護老人保険施設や居宅を中心に、地域包括ケアシステムでの様々な場面での歯科衛生士の役割を理解する。 8. 周術期の口腔の問題を学び、病院等での歯科衛生士の役割を理解する。 9. 相互間実習で規格性のある口腔内写真撮影ができる		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	定期試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1 2	口腔清掃実習	相互間実習（染め出し・記録・口腔内写真）	平井
3	歯科保健指導の実際	具体的な保健指導の検討（グループワーク）演習1 まとめ（模範解答の解説）	人見
4	歯科保健指導の実際	具体的な保健指導の検討（グループワーク）演習2 まとめ（模範解答の解説）	人見
5	ライフステージにおける歯科保健指導	臨地実習振り返り、専門学校生における指導法について	半田
6	口腔健康管理	口腔健康管理の意義と目的 口腔健康管理と口腔衛生管理・口腔機能管理について	人見
7 8	口腔衛生管理	口腔衛生管理相互実習	平井
9 10	口腔衛生管理	口腔衛生管理相互実習	平井
11	口腔健康管理の実際	介護予防と口腔健康管理（オーラルフレイルの予防）	人見
12	口腔衛生管理の実際	要介護者に対する口腔衛生管理	人見
13	口腔衛生管理の実際	介護保険施設の機能と、歯科衛生士の役割	人見
14	口腔健康管理の実際	摂食嚥下障害と歯科衛生士の役割	人見
15	口腔健康管理の重要性	周術期の口腔の問題と歯科衛生士の役割 まとめ	人見

授業科目	歯科診療補助論Ⅱ	分 野	専門基礎分野
時 期	2 学年 通年（後期）	単位数	2 単位（30 時間）
担 当 者	半田茜・吉田由希子・結城泉 大場智美・平井愛梨 秋葉まゆ美・高橋弥良	実 務	○（歯科衛生士）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版） 器材準備マニュアル（口腔保健協会） 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版（医歯薬出版） デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック 2023 年版（全国保団連）		
参 考 書	歯科医療における感染予防対策マニュアル&研修テキスト（医歯薬出版） チェアーサイドデンタルマテリアル（医歯薬出版）		
一般目標	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。		
到達目標	1. 歯科診療の流れを病態別に説明する 2. 歯科診療室における歯科衛生士の役割を理解し、適切な対応について考察する 3. 医療人としての自己管理について考察し行動する 4. アルジネート印象材の取り扱いを理解し、実践する 5. 歯科用石膏の取り扱いを理解し、実践する 6. 各治療に対しての歯科診療補助を説明する 7. ラバーダム防湿法を実践する 8. 合成ゴム質印象材について説明する 9. 全身疾患を持つ患者に対する偶発事故防止の注意事項を述べる 10. ヒヤリ・ハットについて具体例を説明する 11. 在宅訪問診療の流れと診療時の留意点を述べる		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・実技試験・提出物・出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	寒天印象採得の補助 ・寒天アルジネート連合印象	半田
2	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	寒天印象採得の補助 ・寒天アルジネート連合印象 ・石膏模型の作成	半田
3	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	仮封・仮着の補助	半田
4	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	保存修復時の診療補助	半田
5	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯内療法時の診療補助	半田
6	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯周外科治療の診療補助	吉田
7	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	補綴治療時の診療補助	半田

8	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	口腔外科治療時の診療補助	半田
9	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯科麻酔時の診療補助	半田
10	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	小児歯科治療時の診療補助	吉田
11	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯科訪問診療における対応	吉田
12	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	ラバーダム防湿法②	半田
13	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	実技評価練習会	半田
14 15	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	実技評価	半田
16 17	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	合成ゴム質印象材の補助 まとめ	半田
18	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	歯科でのアナフィラキシーアレルギー対応法	吉田
19	診療補助基礎Ⅱ 診療補助実習	災害医療とトリアージ	半田
20 21	診療補助実習 (松風セミナー)	歯面清掃器の使用方法和メンテナンス	半田

授業科目	臨床実習・臨地実習Ⅱ（臨地実習）	分 野	専門分野
時 期	2 学年 通年	単位数	8 単位（360 時間）
担 当 者	臨地実習指導歯科医師 ¹⁾ 臨地実習指導歯科衛生士 ²⁾ 結城泉 ²⁾ 大場智美 ²⁾ 半田茜 ²⁾ 平井愛梨 ²⁾ 秋葉まゆ美 ²⁾ 高橋弥良 ²⁾	実 務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教 科 書			
参 考 書	臨地実習 HAND BOOK（クインテッセンス出版） 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版（医歯薬出版）		
一般目標	幼児・小児への口腔衛生活動を円滑に展開するために、発達段階および日常生活を理解し、その対応法を学ぶ。		
到達目標	臨地実習帳 参照		
学習方略	臨地実習		
成績評価方法	臨地実習前・中・後実習評価、指導者評価、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨地実習	・ 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける	指導 歯科医師
2			
3		・ 臨地の場にいる歯科衛生士の役割を理解する	指導 歯科衛生士
4			
5		・ 対象者の問題を総合的に把握し理解する能力を身につける	指導 歯科衛生士
6			
7		・ 保健、医療、福祉、介護の場において多職種と協働する能力を身につける	結城 泉
8			
9		・ コミュニケーション能力を身につける	大場智美
10			
11		・ 自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける	半田 茜
12			
13		詳細については、臨地実習帳参照	平井愛梨
14			
15			秋葉まゆ美
16			
17			高橋弥良
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

授業科目	臨床実習・臨床実習Ⅱ（臨床実習）	分野	専門分野
時期	2 学年 後期	単位数	8 単位（360 時間）
担当者	臨床実習施設長 ¹⁾ 臨床実習指導歯科衛生士 ²⁾	実務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教科書			
参考書	臨床実習 HAND BOOK（クインテッセンス出版） 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第2版（医歯薬出版）		
一般目標	講義、基礎実習を基に実際の場で必要な知識、技能および態度を身につける。		
到達目標	臨床実習帳 参照		
学習方略	臨床実習		
成績評価方法	臨床実習前・中・後実習評価、指導者評価、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨床実習	1. オリエンテーション	臨床実習 施設
2		2. 診療開始前準備	
3		3. 受付対応の見学	
4		4. 患者誘導及び患者応対	指導 歯科医師
5		5. 器具器材及び材料の取扱い	
6		6. 診査、検査、診断の補助、介助	
7		(1) 問診	指導 歯科衛生士
8		(2) レントゲン写真撮影と現像	
9		(3) 口腔内写真撮影	
10		(4) スタディモデルの作成	
11		(5) 硬組織・歯周組織歯周組織検査	
12		(6) う蝕活動性試験	
13		7. 歯科治療の準備と歯科診療補助	
14		(1) 保存修復	
15		(2) 歯内療法	
16		(3) 歯科補綴治療	
17		(4) 口腔外科処置	
18		(5) 歯科矯正治療	
19		(6) 小児歯科治療	
20		(7) 各種セメント、印象材の練和	
21		8. 歯科予防処置法	
22		(1) 予防的歯石除去法・PMTC	
23		(2) う蝕予防処置	
24		① フッ化物塗布	
25		② 小窩裂溝填塞	
26		9. 歯科保健指導	
27		(1) 口腔衛生指導	
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			

授業科目	隣接医学	分 野	選択必修分野
時 期	2 学年 後期	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	中島幸裕	実 務	○ (医師)
教 科 書			
参 考 書			
一般目標	全身医学にもとづいた歯科医療であることを理解するために、特に歯科と隣接する疾病についての原因、症状、治療方法などの知識を習得する。		
到達目標	1. 全身の中の口腔であることを理解する 2. 疾病についての原因、症状、治療方法を列挙する 3. 歯科治療時における注意点を列挙する		
学習方略	講義形式		
成績評価方法	出席状況・レポート評価		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	呼吸器系疾患	気管支喘息・肺炎など	中島
2	呼吸器系疾患	気管支喘息・肺炎など	中島
3	循環器系疾患	高血圧・虚血性心疾患など	中島
4	循環器系疾患	高血圧・虚血性心疾患など	中島
5	脳血管疾患	脳梗塞・頭蓋内出血など	中島
6	脳血管疾患	脳梗塞・頭蓋内出血など	中島
7	代謝系疾患	糖尿病・高脂血症・骨粗鬆症など	中島
8	代謝系疾患	糖尿病・高脂血症・骨粗鬆症など	中島
9	肝疾患	ウイルス性肝炎・非ウイルス性肝炎・肝硬変など	中島
10	肝疾患	ウイルス性肝炎・非ウイルス性肝炎・肝硬変など	中島
11	腎疾患	ネフローゼ症候群・腎不全・腎透析など	中島
12	腎疾患	ネフローゼ症候群・腎不全・腎透析など	中島
13	血液疾患	血液系・血小板・凝固因子による疾患	中島
14	血液疾患	血液系・血小板・凝固因子による疾患	中島
15	自己免疫疾患	膠原病・シェーグレン症候群・ベーチェット病など	中島
16	自己免疫疾患	膠原病・シェーグレン症候群・ベーチェット病など	中島